

る。普段の苦手意識を忘れて、母といっしょに細水先生の授業を受けるのはとても楽しい。普段は苦手教科だし、少しちがった問題のせいかな、できた時は母と顔を見合わせ、たちまち笑顔になる。さらに、自分は自信をもつていいんだ!!とも思える大切な時でもある。

細水先生が与えてくれた自信が、苦手こくふくになればいいな、と思う。

おもしろかったセミナー

小学校 五年 匿名希望

いろいろと体験などができたり、くわしく話したりしてたけどちよつとわからない事もあった。

でも、自分のためにもなったし人工知のうについていろいろとわかりました。

中島小学校 六年 佐々木 雄志

人工知能は、昔から頭がいいと思っていたけど、昔は大きくて頭がよくなくて、普通の人に負けていたと聞いたけど、今は、すぐく頭がよくて、ゲームのチェス、オセロ、いごでもプロの人に勝って今の人工知能はすごい進化しているんだなと思いました。

セミナーでおしえてもらって

金堀小学校 六年 竹村 響稀

人工知能のことはそんなに考えたことがなかったし、なにもしらなかったけど今日のことを聞いていろいろ人工知能のことがちよつとはわかったかなと思いました。

人工知能についていろいろおしえてもらってすごく勉強になったのでまたきたいです。

創才セミナー

中学校 二年 匿名希望

私は、今回の創才セミナーに参加してみても人工知能についてよくわかりました。言葉は知っていましたが、どのような内容かは知らなかったのよかったです。様々なゲームで、コンピューターが勝っていてすごいと思いました。コンピューターに色々な知識を入れていつかコンピューターは人間を超していくのかなあと思いました。人間と人工知能の共存するのはいいと思います。人工知能は人工知能が得意なこと人間は人間の得意なことをするのがいいと思います。長所を使っていくのがいいと思いました。

創才セミナーに参加して

保護者 匿名希望

初めて参加した創才セミナーでした。内容もわからず参加してしまいました。松原先生のユーモアをまじえた講義はとても楽しくためになるものでした。

人工知能が、近い将来人間に代わる物になるのは容易に想像できますが、それを使う人間が、人工知能以上にかしこくならなければならない使命を感じます。人工知能に心を持つことはないと思います。人工知能に心を持たないロボットが本当にあらわれるかもしれないと思わせる講演でした。

私達が、胸をわくわくさせ毎週見ていた鉄腕アトムがやってきたらどんなに素晴らしいことでしょう。

このようなセミナーをきっかけに数学や科学に興味を持てる子がどんどん増えていくといいと思います。



創才セミナーに参加して

中学校 三年 匿名希望

今回、創才セミナーに参加して人工知能について説明していただきました。

僕は人工知能は数学とどのような関係があるのか疑問でしたが、分かりやすく将棋で説明してもらい、あらゆる状況に対し、次の最善手をとるというものでした。

このように、最善策をとるので、プロの棋士が人工知能に負けてしまい、人間が機械に劣るといことが明確になるのはそう遠くないと知りました。

人間の職が機械にうばわれて、人の職が失われるのではということはなく、失われるのではなく、変わるのだと今回のセミナーで教わりました。

人工知能がこれからの生活にどう関わってくるのかとても楽しみになりました。

創才セミナーに参加して

保護者 匿名希望

人工知能は、身近にはまだ無いと思っていました。コンピューターの暴走を題材にした映画を観た時にとて怖いと思いました。でももう人間を超えている分野があることを知り、少し複雑な気持ちです。

人間が開発した人工知能が、今後どのような方向に向かうのが不安でもあり、楽しみでもあります。

講演の中でもありましたが、人工知能を良いものにするのも悪いものにするのも人間次第なのも、これからのかな・・・と思いました。

函館ラ・サール高等学校 一年 米澤 大蔵

今年で三回目の参加となった南北海道創才セミナーは一、二回目と異なるものだった。一、二回目は中学生だったので、細水先生の授業や講演を聞く側だったが、高校生となったのでサポートする側に回った。細水先生の授業では説明する場面があったが、自分の頭で分かっている、人に説明する難しさというのを感じ、思ったように説明することができなかった。

今回、学んだことは、セミナーを受けるためには様々な支えがあることを改めて感じた。まだ、完全にサポートできてはいないが、とても裏方の重要性が分かり、とてもよい経験となったと思う。

保護者 米澤 童子

夏休み明けになると、大沼まで後何日だねと子供達と会話する我が家。三年目の参加は高校生になった息子は隣でハサミを持つ機会はありませんでした。娘とたくさん頭を柔らかくしてきました。

細水先生の授業には、いつも引き込まれ、始まる前は時間が長いかなと思ったりもしますが、終わると「まだ、やりたかった。まだ聞きたかった。」という気持ちに変わっているのに気付かされます。算数・数学は決して得意、好きと言えない息子と娘ですが、どきどき わくわくを体験する度に、又来夏が楽しみになっていきます。

一年ずつ頭の柔らかさを失いつつある母親は、少しでも速く「お母さんが先に解けたよ。」と言える様、算数を楽しんでいきたいと願います。

創才の先生の名言

◆細水保宏先生

じゃんけんは、考えようによつては、一回目で勝つちゃうと、二回目がつまんないですよ。何回も負けて「やった、勝った!!」という喜びがある。結構、算数ってそういうもので、簡単なものをやっても楽しくない。ちょっと難しいと、できた時にすごく嬉しい。

先生はいつも算数の授業をやる時に、教室の中にこれがあると思うんだ――

はらはら わくわく どきどき
やっぱり、算数はおもしろいから、どきどきしなくちゃ、はらはらしなくちゃ、わくわくしなくちゃ。

(本年度創才セミナー 第一部の中でおっしゃった言葉)

◆松原仁先生

コンピューターは人間の仕事を奪うんじゃないか、という人もいますが、(未来も仕事は)あると思います。別になくなりません。「ない」って言うてる人は、ちょっと脅かし過ぎだと思えます。

これまでも技術の進歩によって、仕事の内容が変わる、ということはあるんですよね。

例えば、僕が子どもの頃、電車に乗る時、窓口で切符を買って、駅員さんがはさみを入れて、降りる時に駅員さんが回収していました。それが駅員さんの大事な仕事だと思っていたんですよ。でも今はピッと通すだけ。

でも駅員さんが失業したかと言うと、そうではなく、違うことをやっているんです。だから、お子さんたちは、お父さんお母さんと違う仕事に就く可能性が高い。

(本年度創才セミナー 第二部の中でおっしゃった言葉)